

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200373		
法人名	有限会社ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム清水三保の家 2号館		
所在地	静岡県静岡市清水区三保3503-74		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果市町村受理日	平成22年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-koungo-shizuoka.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=2274200373&SCD=3>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	平成22年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公園に隣接しており 何人かで連れ立っては毎日散歩に出掛けています。車の騒音から離れて自分のペースでゆっくりと歩くことができます。四季折々に咲く花を楽しみ、富士山の雪を確認しながら語り合い ゆったりとした毎日を送っています。ホームの建物に特別な豪華さはありませんが 入居者様が穏やかに暮らす空間があります。共同で暮らす楽しみや生活を分かち合う時間を大切に日々を暮らしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季を感じ、ご近所づきあいをするといった「一般の家庭で住む」あたりまえの感覚を大切にしている。したがって、事業所外の行事や散歩のほか、外部の方(家族を含む)の訪問を歓迎している。また、管理者ならびに職員の聞きとりでは、2つの秀でている点を受け止めた。ひとつは「現状を受け入れがたい家族の気持ちを察しながら、状態を理解してもらえるように努め、家族との関係の継続や回復に取り組んでいる」ことである。実際に夫婦関係や親戚関係が収まった例もある。2つめは、「利用者が手伝って欲しいことでも、本人の役に立つことを考え、時には励ましの言葉や共感の言葉を交え、手伝わないという選択肢をもてる技能の高い職員が多い」ことである。それは介護福祉士が年々増え現在8名、本年ケアマネ受験者が4名いることから向上心が伝わる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1		地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき 管理者と職員は地域に根ざしたホームとなるよう努力している	日々の朝礼で再確認の時間をつくっている。また、年1回振り返りと翌年の目標設定の機会をもち、目標が理念につながるものかについて管理者は確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者は 天気の良い日には 毎日公園に散歩に出掛け 近所の方と挨拶や会話を交わしている 又 近隣のご家族は頻繁に見えている	独居または高齢者夫妻の世帯が増し、民生委員を通じた要請は少なくない。また、地区会長からは防災に関係した働きかけがあり、地域からのニーズの高まりに応え、貢献していきたいと管理者は考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進介護の開催に当たってはテーマを決め 家族・民生委員・自治会長さん達と話し合いの場を設け 認知症の理解に役立ち、入居者様が地域で共に生活できる力となる様に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において 出席者の方々に 外部評価の結果内容を報告し 今後の参考となるようにご意見を伺うように努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保の方等在籍しており普段の様子を定期的に面会に来てくださり、報告相談している 問題点があれば個々に相談し 解決の努めている	郵送で済むようなケースでも出来る限り直接届け、話をする機会をつくっている。また、包括主催の地域講座の講師を務める際には事業所のPRIにも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修において職員は身体拘束について理解しており 入居者の日々の精神的状態に合わせて危険でない状況を作るよう努力している	身体拘束排除ゼロ宣言をしている。本部で開催する年間研修や市主催の研修などの参加のほか、標準化を図る目的でユニットリーダーを中心に所内講話を繰り返している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修において職員は虐待防止について理解しており ホームにおいて入居者に対する虐待は行われていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議において 成年後見人を務める方に 制度の仕組や利用の仕方について説明して頂き ご家族等出席者や職員の理解に努め今後の活用に役立てよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定時には 個々の家族に十分説明を行いご理解を頂いたうえで署名捺印して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会においてご意見を伺えるように話し合いの場を設けている他、外来者にはご意見箱を設置している。また、来所される静岡市の介護相談員が利用者の話をゆっくり聞いてくださり そのお話を参考にしている	1ヶ月に1度、市の介護相談員の訪問があり、利用者や家族の話を聞いてもらっている。外の人との関わりが利用者にも職員にもよい刺激になり、かつ運営に生きる情報をもたらしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議を開催しており運営の方針を伝達すると共に 職員の意見を聞く機会を設けている	管理者は職員のケアサービスの改善向上に関する提案をすみやかに採用し、実践している(例、トイレの温タオルを古い炊飯器の再利用で補うことなど)。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数の応じて取れる資格があるが 意欲のある職員が講習会に参加できるよう調整、援助している 資格取得後は資格手当として反映される		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が整備されており 入社後はA課程B課程 中堅社員はAA課程前期・後期レポートがあり段階を追って提出が課せられる いる また、年3回の教育支援レポートがあり 職員が学んだ事をレポートとして提出し現場ケアに役立てている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松原包括支援センターにおけるケアマネ勉強会や地域の組織作りに参加している また近隣グループホームへの運営推進会議に出席等により 情報の収集とサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない利用者様については 職員が積極的に関わりを持つように努め 他利用者様と少人数での散歩や会話をセッティングし良い人間関係の構築に心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様とご家族様の信頼関係を損なうことなくどちらとも良い人間関係が築けるように 情報収集、分析、傾聴、共感に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員は情報を共有し 利用者様、ご家族が望んでいるケアが行われるよう必要に応じて行われるカンファレンスで確認し実行するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活を共に暮らす同居人として 日々の生活の喜びを分かち合い励ましあいながら暮らせる関係を目指している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との信頼を基に共通の認識を持って 利用者様を支えていけるよう 蜜に連絡を取り合って方向性を確認しあい実行努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの生活や人間関係が希薄にならないように毎日の生活の中に趣味などを取り込んだり 外部からの訪問者を歓迎し 職員が先導役となって関係を保ち安心できる人間関係を継続させている	現状を受け入れがたい家族の気持ちを察しながら、現状を理解してもらえように努め、家族との関係継続や回復支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を築くのが苦手の利用者様や1人の好きな方等個性を把握し ケアが画一的にならないように より良い人間関係を築けるようにアドバイス誘導を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた利用者さんの所には、折を見て訪問し声をかけたり、その後の様子を伺うようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動の中から利用者様が望んでいることを推測し、本人本位の意向、意思を尊重するよう心掛けている	家族と職員との関係に親密さが増すにつれ様々な情報が入ることもあり、入所時にアセスメント記録に日々情報を加えている。利用者からの情報については、業務日誌または介護記録、重要なことは詳細記録に記載し、一元化されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際の事前聞き取りによって、これまでの生活歴を把握し、ホームでの生活がかけ離れたものにならないようにケアに生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員は日々の生活のケアの中で常に利用者様と向き合い様子観察しアセスメントして、日常生活が気持ちよくに過ごせるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランについては、本人希望を基に、日常接している職員をはじめ担当職員、医療関係者、家族等の幅広い人たちから意見を集め作成している	モニタリングは担当を決めてはいるが実際はフロア単位で全職員で対応している。またその情報は、各フロア毎の計画作成担当者に集まるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、介護記録や介護詳細記録、排尿排便チェック表、血圧チェック表、申し送り帳等を通して職員間で情報を共有しながら介護し見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の置かれている家族関係や経済状態は異なるため、社会福祉協議会や権利擁護等の利用を行っている。また普通総合病院だけでなく、専門的な病院受診を、ご家族と相談して行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族を基に本人の人間関係を把握し 親戚の方や友達など訪問や会話など 本人が自分らしく生活できる場や空間ができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には定期的に受診や健康診断を受け状態を報告している また適宜、治療に関するアドバイスを受けケアを進めている	基本は家族だが、都合がつかない場合は職員が受診支援をしている。家族の場合は聞きとりをした上で、詳細記録の中に医療記録を記載し、情報の共有化ならびに緊急時の対応の標準化に努めている。	
31		介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回関連施設より看護師の訪問を受けており必要な医療面での相談とアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に訪問、容態を確認し必要な物があればご家族にお知らせし連絡を取っている 情報を収集し退院時の受け入れ態勢作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の重度化が予想されるご家族には 状態や内容が十分理解して頂けるように説明し その後の方針を共に考え決定している	契約時にできることできないことを家族に説明している。関連機関に療養型があるため、希望があれば移っていただくことも可能である。また、看取りの希望があれば対応したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにおいて急変時の対応の講習会を開催しており 全職員が受講している また急変時のマニュアルが確立されており 職員はそれに沿って対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に年2回の避難訓練を職員と利用者様参加で行っており 昼間・夜間・津波等を設定し実行している 近隣消防署の来て頂いており 消火器の使い方を毎回指導して頂いている 職員は近隣自治会の防災訓練に参加している	年2回想定を替え取り組んでいる。うち1回は消防署の協力を得て、実務を丁寧に指導してもらっている。また、消火器の取り扱いやタンカーの組み立てなど具体的な方法について訓練と研修を繰り返している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者様を尊び、言葉使いに気をつけ、居室への出入り等必ずノックをしてから入るなどプライバシーを尊重した行動に気を取っている	利用者が手伝って欲しいことでも、本人の役に立つことかを考え、時には励ましの言葉や共感の言葉を交え、手伝わないという選択肢をもてる技能の高い職員が多い。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分の要望を言えない利用者様でも、日常の行動や言葉の端々から本人の希望を推測し自己決定できるように対応している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や気分などを観察し、日常の生活パターンはあるものの、それにはこだわることなく、その日の調子に合わせた介助を心掛けている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせた洋服を選択して着ていただいている。食事等で衣服が汚れた場合は更衣するなど清潔を保てるよう援助している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歯のない方には、お粥や刻み食など個々にあった形態に調整し、食べやすく工夫している。トレイ・食器拭き、テーブル拭きなど積極的に進んで片付けに参加していただいている	1ヶ月に1度、嗜好調査を実施し、希望に副ったものをつくるようにしている。歯のない方、食事療法が必要な方には個別対応をしている。湯飲みとお箸は自分の好みのものを使っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表、水分チェック表で毎日の摂取量を確認している。食事量の少ない方は担当医と相談しながら補助食品等で補うように努めている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のできる能力に応じて洗面台へと誘導し口腔ケアを行っている。できる限り自立で行えるよう見守り介助している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立されている利用者様は、自分のペースに合わせてトイレに行かれるので排泄チェック表に行った時刻と排尿か排便かを記録している また自覚の薄い入居者様には 定期的にトイレに誘い安定した排泄の習慣を心掛けて日常において排便チェック表で排便がない日数をチェックしている また毎日散歩に出掛け体調を整えている 排便のない日が続くようであれば、腹圧マッサージをしたり担当の先生に相談したりして規則的な排便ができるように注意している	排便チェック表に便は赤で記入し、双方記録している。総体のパターン把握から、散歩、昼食、夕食、就寝前に定期的に尋ねるようになっている。利用者の意思を尊重し、希望がなければ誘導してはいないが、失禁もほとんどない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除く毎日入浴時間を設けているが熱い湯の好きな方は早めに ぬるい湯の好きな方は遅くに入浴に誘い 入浴時間も個々のタイミングに合わせる様に心掛けている	浴室の空調設備が完備されていないため、共用空間と浴室との温度差をなくす工夫を常に行っている。入浴での楽しみは特に用意していないが、清潔保持には留意している。また、仲間同士で入ることを楽しみにする利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝室の温度調節に注意し 冷房の嫌いな方には細めに窓の開閉を行うなど 個々の好みにあった対応をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的や用法を理解しており 錠剤の服用が困難であれば粉状にしたり ゼリー状の物と服用するなど工夫している 状態に変化があればその都度 医療機関を受診し相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳や片付け、食器拭き、洗濯物たたみ等 一緒に生活していく上でそれぞれができる範囲で役割を担っている 毎日の公園への散歩は楽しみの一つである		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は身体的な理由から特別な希望を聞くことはないが 近くの公園へ毎日出掛けて公園のベンチで語らい花を眺め、自然の風に吹かれるのを楽しみにしています	日々の散歩のほか、新年は三保神社に初詣、春は花見、夏は祭りなど、季節を感じられる場所に出向いている。また、行きつけの美容院の送迎などもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	付近の商店で利用者様の希望に応じた物を 本人が購入している 認知症により希望商品が分かりにくい場合は職員が援助している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望を聞きながら、利用者様の状態を考慮に入れながら 家族や友人とのコミュニケーションを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が穏やかに暮らせるように配慮し何か気になるような物がないか観察し気を配っている また、季節感を取り入れた飾りを 利用者様と共に作るなど 親近感を持った空間となるよう心掛けている	利用者と職員とつくった作品が飾られ、特に季節が感じられる掲示物は穏やかな気持ちになる。利用者の人間関係を考慮し、テーブルやソファの位置について工夫している。	体感での空調管理に十分対応しているが、今後は共用空間に温度計・湿度計を設置し、さらなる管理を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の移動能力には個性があるためどんな場合でも どこに行きたいかを観察し居心地の良い場所にいける手助けができるよう心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望や過去の生活歴を考慮して 本人が納得いくことを第一に支援している	2号館の防火カーテンは彩度が低い橙色で優しい風合いである。病気の進行により「引越し」願望のある利用者の居室は、衣類が段ボールに詰めたままであり、その人それぞれの意向を汲んでいることが視えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・廊下・浴室等には バリアフリーとなっており手すりを設置し自立して移動できるよう工夫されている 机や椅子の配置、車椅子や歩行器の置き場所など 安全で生活し易いよう工夫している		